

第3編 重点プロジェクト

五霞町まち・ひと・しごと創生総合戦略

第3編 重点プロジェクト 用語解説

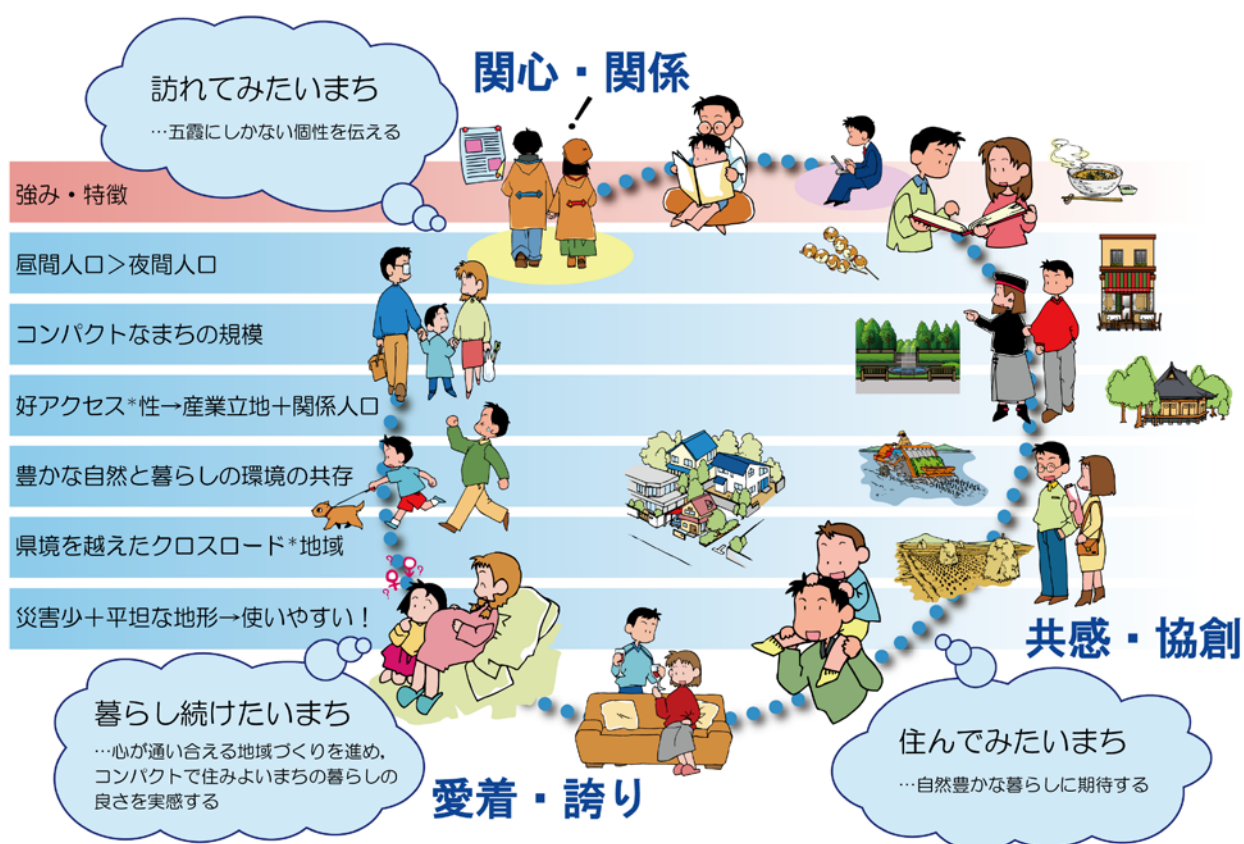
ページ	用語	解説
41	アクセス	ある場所へ行く経路や目的地までの交通手段のこと、また、交通の利便性のことをいう。
41	クロスロード	十字路、交差点、2本の線（道、弧など）が交差する点のことをいう。
43	Society5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた新たな未来社会の姿。第5期科学技術基本計画において提唱された。
43	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことをいう。
46,50	ICT	Information and Communication Technology の略。コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称のことをいう。
47	ダウンサイジング	同じ機能、性能を保持しながら、サイズ（規模）を小さくすること。モノや組織、システムなど様々なことに関して用いられる。
47	セーフティネット	個人や企業に経済的なリスクが発生したとき、最悪の事態から保護するしきみをいう。安全網または社会的安全網とも訳される。
48	長寿命化	寿命が延びること、あるいは寿命を延ばすことを意味する表現で、特に消耗品やインフラなどの耐久性を向上させ、長持ちするようになることを指す場合が多い。
49	自助・共助・公助	「自助」は災害時に自分自身の命を自分で守ること、「共助」は地域で災害発生時に力をあわせること、「公助」は公的機関が災害の問題を解決することをいう。
49	ソーシャルインクルージョン	社会から排除され孤立している貧しい人々を、様々な社会資源を動員して同じ社会の構成員として社会全体で包み込み支え合おうとする考え方で、「社会的包摂」と訳される。
49	ダイバーシティ	多様性という意味の英単語(diversity)を語源とし、性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ積極的に活用しようとする考え方のことをいう。
49	自主防災組織	災害による被害を予防・軽減するための活動を行う、地域住民主体の任意団体のことをいう。
49	レジリエンス	一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される。防災や環境分野で、想定外の事態に対し社会や組織が機能を速やかに回復する強靱さを意味する用語として使われる。
50	ネットワーク	「網（net）」という意味の英単語を語源とし、人間関係の広がりや、組織や集団、拠点などの間の繋がりがりや体系、交通機関や道路等の地理的な構造などを総称したものである。

第1章 「重点プロジェクト1ー活力あるまちづくり戦略」

1. 活力あるまちづくり戦略に向けた基本的な考え方

本町には、雄大な自然と人々の暮らしを支え育む利根川・江戸川を始め、田園・緑地環境など水と緑に育まれた、豊かな自然環境があります。この豊かな自然環境を有しつつ、広域的な道路網を軸に持つ本町の立地条件といった強みや特徴を生かして、訪れてみたい・住んでみたい・暮らし続けたいと思ってもらえるまちを創っていく必要があります。

そのため、五霞らしさを個性として発信し（関心）、地域に関わる人を増やし（関係）、そして自然と共生した暮らしに期待してもらい住んでみたいと思ってもらえる環境を共に協力してつくり（共感）（協創）、コンパクトで住みよいまちの暮らしの良さを愛し誇りをもってもらおう（愛着）（誇り）ための施策を重点的に展開し、人口減少社会においても豊かな暮らしのあるまちを目指します。



2. 活力あるまちづくり戦略のための基本目標

本町の各種政策が連動して効果を発揮するよう、政策をパッケージとして設定し重点的に取組を実施していくため、基本目標を下記のように設定します。

《訪れてみたいまち（関心・関係）》×《強み・特徴》

基本目標 1 ようこそ五霞へ！ 心をつかみ、地域とつながるまちづくり

本町は、中世のころは「下河辺荘」といわれ、利根川水系、渡良瀬川水系などが織り成す水運の要衝であったこの地は、現在でも首都圏中央連絡自動車道と新4号国道が交差する首都経済圏の交通の要衝となっています。

この立地条件を生かしながら、人やモノの往来の拠点として、首都圏中央連絡自動車道五霞インターチェンジ周辺の更なる高度化を進め、周辺市町も含めて活力を牽引していく“場”の力を高めます。

《住んでみたいまち（共感・協創）》×《強み・特徴》

基本目標 2 いいよね五霞！ 共感があふれ、協力して創るまちづくり

本町にはコンパクトな本町ならではの特徴を生かした子育ての環境があります。また、広域的な交通環境の充実を背景に規模の大きい事業所が立地し、安定した職住近接したライフスタイルを築くこともできます。このような環境の中で、それぞれが望むライフスタイルが実現できるよう、五霞ならではの住まいの環境づくりを進めます。

《暮らし続けたいまち（愛着・誇り）》×《強み・特徴》

基本目標 3 五霞がすき！ まちを愛する人がいっぱいのもちづくり

便利でない。望む仕事がない。高等学校がない。まちに対する不満は様々です。

しかし、コンパクトなまちならではの特徴を生かしたコミュニティづくり、住民同士が向き合いお互い協力しあいながら取り組む協働の関係づくり、さらに将来にわたって安心して安全な暮らしができる環境づくりを進めていきながら、「人口規模が小さい」「関わる主体が少ない」ことを逆にメリットとして五霞らしい独自性のある施策を展開し、まちの課題解決力を高めます。

3. 活力あるまちづくり重点戦略

戦略の中心となる事業を主軸に、既存の事務事業を組み合わせながらパッケージ化し、基本目標ごとに進めていく戦略を位置づけました。

《訪れてみたいまち（関心・関係）》×《強み・特徴》

基本目標 1 ようこそ五霞へ！ 心をつかみ、地域とつながるまちづくり

取組項目 1 進化する・成長する五霞インターチェンジ周辺

Society5.0*時代に向けて“人”と“物”と“技”の集積拠点へ進化を図ろう。

- 面（基盤整備）と軸（道路整備）の充実を機会と捉え、五霞インターチェンジ周辺の拡大を図るなど、活力ある産業・物流の拠点として機能強化に取り組みます。
- 五霞インターチェンジ周辺の産業・物流の拠点においては、これからの新しい時代に対応できるよう競争力を高め更なる進化を図ります。

取組項目 2 「出会う」「つながる」が広がる場（道の駅ごか）や機会（イベント）づくり

モノやヒトを通じて五霞の良さを発見してもらい交流が広がる場や機会をつくろう。

- 道の駅ごかに立ち寄った方が、隠れた銘品や特産品を発見し、味わい、感動し、そして五霞に興味を持ってもらえるよう、モノを通じた感動を提供する拠点（場）として、ハード・ソフトの充実を図ります。
- イベントなど様々な交流の機会を増やし、「楽しい」「うれしい」を体験できる機会の充実を図ることを通じて、町外の人が五霞のコミュニティに深く関わる関係人口*の増大につなげます。



《住んでみたいまち（共感・協創）》×《強み・特徴》

基本目標 2 いいよね五霞！ 共感があふれ、協力して創るまちづくり

取組項目 1 プライベートを大事にした“GOKA（豪華）”な暮らしを営む住まいの環境づくり

家族との時間を重視した職住近接の豊かな暮らしが描ける居住環境を創出しよう。

- 区域指定制度の検討、住宅開発適地の検討と市場調査、民間による住宅開発誘導の検討などを行うとともに、企業住宅とセットの事業所誘致やライフスタイルに応じた空き家活用、子育て支援住宅の検討など、外部から住みたいと思う住宅環境をソフトとハードを一体的に考えた取組を進めます。
- 地域の資源を活用した体験事業やアトラクションの創出を通じ、仕事の間、地域の生活の間、余暇の間などのPRに努めます。

取組項目 2 心がほっと温かい。適度なサポートがうれしいコンパクトライフ

子供や高齢者、障害のある方、外国人の暮らしを支えるサポート体制の充実を図ろう。

- 子供や高齢者、障害のある方、外国人など、周囲のサポートが必要な方への支援も、その人の実情に合わせてきめ細かにできるという特徴を生かし、五霞ならではの子育て支援や地域福祉の充実を図ります。
- サポート体制の一元化を入り口に、地域コミュニティや活動団体の支援体制を作りながら、みんなで子供を育て、高齢者を見守り、障害のある方や外国人も皆が暮らしやすい環境をつくる取組を進めます。



《暮らし続けたいまち（愛着・誇り）》×《強み・特徴》

基本目標 3 五霞がすき！ まちを愛する人がいっぱいのまちづくり

取組項目 1 五霞での暮らしの安心を高める

子供や高齢者の不便な生活を支援しよう。働く世代への支援を行おう。

- 子供や高齢者、障害のある方に対しては、例えば移動支援（3つの公共交通事業の推進）など、サポートが必要な「モノ（手段）」を提供することで、不便な生活を改善していく取組を進めます。
- 就職支援や創業支援（スモールビジネス）など、「コト（機会）」を支援するサポートにより、暮らしの不安を和らげる取組を進めます。

取組項目 2 五霞町への“愛の力”で、まちの内外の様々な主体を結集させる

外部とのつながりの枝葉を増やそう。内部の協働のネットワークの網目を細かく張り巡らそう。

- 町外に対しては、行政サービスの広域化やふるさと納税人口の増加（ふるさと納税事業等）など、様々な主体（民間・個人・専門家・広域行政）とつながるドーナツ型の“まちづくり”を進めます。
- 町内に対しては、世代別の参加しやすい協働事業の展開や地縁型・目的型のコミュニティ対象の協働事業の展開など、住民や事業者がパブリック（公共）に参加し、“まちづくり”を他人ごとから自分ごとにしていく取組を進めます。

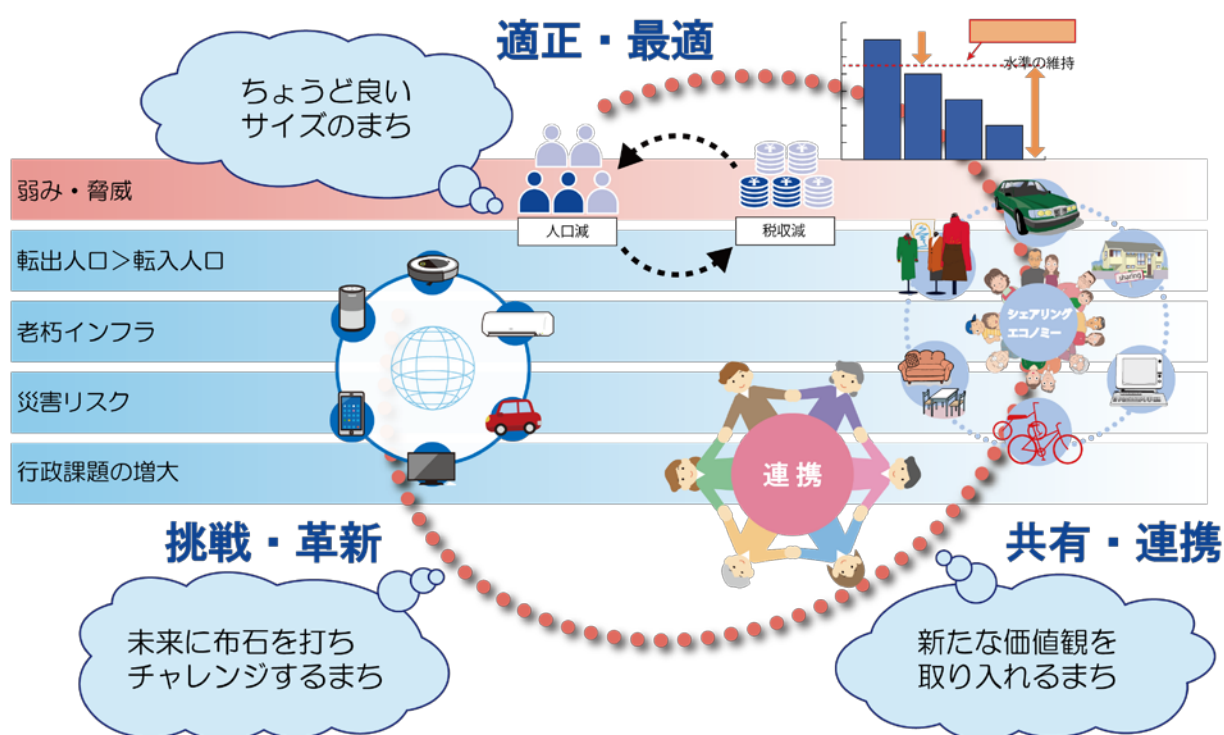


第2章 「重点プロジェクト2ー持続するまちづくり戦略」

1. 持続するまちづくり戦略に向けた基本的な考え方

本町における人口減少や少子高齢化は当初の予測を超えて進行しています。時間の経過とともに公共施設等の老朽化や機能の低下が発生し、行政サービス水準の低下や地域公共交通の撤退・縮小、生活関連サービス（小売・飲食・娯楽・医療機関など）の縮小、道路・橋・上下水道といったインフラ維持・管理の負担縮小など、様々な面で縮小せざるを得なくなることが想定されます。

そのため、将来の人口規模に見合う身の丈にあった“まち”のサイズにし（適正・最適）、住民・地域コミュニティ・民間事業者・行政など関係者全員が、“まち”の構成要素であるモノや空間・サービスを共有する中で課題を解決し（共有・連携）、そしてICT*などの技術革新や新たな制度や仕組みの導入、まちづくりのアイデアを投入し（挑戦・革新）、人口減少社会においても住民が幸せに暮らせる環境が持続するまちを目指します。



2. 持続するまちづくり戦略のための基本目標

本町の各種政策が連動して効果を発揮するよう、政策をパッケージとして設定し重点的に取組を実施していくため、基本目標を下記のように設定します。

《適正・最適》

基本目標 1 身の丈サイズの五霞へ！ ぴったりがちょうどいいまちづくり

本町の人口は10,000人を超えた時期もありましたが、現在では最大時の8割程度になっており、さらに、将来は6割を切る想定も予測され、その時代の人口規模に見合ったまちづくりを進める必要があります。

そのため、行政が提供するサービスや行政が保有する施設、まちづくりの仕組みとして機能してきた様々な組織・団体などについて、減少する人口規模の実態に合わせて最適化（ダウンサイジング*）を図り、住民の生命・身体・財産を守るセーフティネット*としての役割を高めるまちづくりを進めます。

《共有・連携》

基本目標 2 皆が助け合う五霞へ！ ヒト・モノ・サービスに加え、ココロ（心）も分かち合うまちづくり

人口減少は、都市基盤施設（インフラ）の機能維持の限界、都市空間のスポンジ化・荒廃化、コミュニティの低下など様々なところに影響を与えます。縮小に伴う行政サービスの低下といったマイナス面を補うため、行政がすべて賄うという原則論を捨て、住民や地域コミュニティ、民間事業者等々による協力を得ながら、それぞれが助け合う関係性の中で、解決を図るまちづくりを進めます。

《挑戦・革新》

基本目標 3 進化する五霞へ！ 挑戦と革新で元気になるまちづくり

人口減少に対して、受け身の解決方法だけでは限界があります。従来取組の延長では実現が困難であり、イノベーション（革新）が鍵を握ります。そのため、「①行政課題を複合化して一体的に対応できる。」「②新たな制度に伴う行政サービスやICTを活用した新しいシステムの普及が速い。」「③機動性が高い。庁内における意思疎通が早い。」といった小規模自治体ならではの特徴を生かしながら、挑戦と革新で元気になるまちづくりを進めます。

3. 持続するまちづくり重点戦略

戦略の中心となる事業を主軸に、既存の事務事業を組み合わせながらパッケージ化し、基本目標ごとに進めていく戦略を位置づけました。

《適正・最適》

基本目標 1 身の丈サイズの五霞へ！ ぴったりがちょうどいいまちづくり

取組項目 1 まちのサイズや暮らしの環境を身の丈にあわせる

まちの環境や仕組みを人口に見合った状態にしていこう。

- 計画的・効率的な公共施設等の更新・長寿命化*対策を推進し、施設の統廃合や複合化・集約化、再配置などを計画的に行い、公共施設の管理及び配置の最適化に努めます。
- 現在の人口規模に適した活動団体の仕組みへと組織の再編を行うとともに、地域を基盤とした「地縁型組織」や目的に応じて活動する「目的型組織」の両方の特性を生かしながら、組織体制の再構築を図ります。

取組項目 2 身の丈（歳入・歳出のバランス）に見合った水準の行政にする

弱者に配慮した優しい行政を維持しつつ、行政コストの最適化を図った公共サービスを行おう。

- 住民の生活に欠かせないインフラ環境については、経費に関するコスト意識を持ちながら、将来を見越した行政サービスの最適化を図り、50年・100年続く五霞町を目指して公共サービスを提供する方向へと転換を進めます。
- きめ細かく状況に応じて対応できる小回りの利いた行政組織体制を構築し、必要な事業はコストをかけても維持する考え方のもと、身の丈（歳入・歳出のバランス）に見合うまちづくりを進めつつ、社会的弱者に配慮した優しい行政の更なる深化に努めます。



《共有・連携》

基本目標 2 皆が助け合う五霞へ！ ヒト・モノ・サービスに加え、ココロ（心）も分かち合うまちづくり

取組項目 1 ヒト・モノ・サービスを分かち合い、まちの“力”を蓄える

地域住民の力を“てこ”に福祉の充実を図ろう。知恵やアイデア、資金、技術を生かそう。

- 自助・共助・公助*の3つの「助」のうち“共助”の力を高めるため、地域社会における様々な福祉問題を解決する力となる「新たな支え合い」の領域を拡大し、地域づくりを通じた人と人の結びつきを強化する取組を進めます。
- 小規模自治体のマイナス面を補いながら、周辺自治体にも負けないまちを目指すため、広域行政による対応や民間事業者・各種団体との連携を進め、民間の知恵やアイデア、資金や技術を積極的に取り入れ、まちづくりに生かしていく取組を進めます。

取組項目 2 ココロ（心）を通わす、分かち合うコミュニティが“平等”で“安心”のまちを創る

誰もが知り合いになりココロ（心）を通わそう。不安を分かち合いみんなで災害への備えを行おう。

- ソーシャルインクルージョン*（社会的包摂）やダイバーシティ*（多様性・多文化共生）といった新しい考え方を取り入れ、性別や世代、国籍、障害の有無に関係なく、分け隔てなく誰もが対等な関係のもとに地域でのコミュニティが形成される取組を進めます。
- 水に囲まれた本町における脆弱性を軽減するため、住民、自主防災組織*、事業者、行政が、それぞれの責務や役割を担う中で、コミュニティの強化によって安全で強靱なまちづくりを形成していく取組を進め、災害へのリスクを軽減し、災害に対するレジリエンス*力（回復力・復元力）を高めます。



《挑戦・革新》

基本目標 3 進化する五霞へ！ 挑戦と革新で元気になるまちづくり

取組項目 1 ICT を積極的に使って元気になるまちづくり

ICT*の力で“まち”の価値を高めよう。役場のICT*改革を積極的に進めよう。

- 本町の産業の発展や地域課題の解決のみならず、住民が快適で活力に満ちた生活を送ることができ環境をさらに向上させ、多種多様な分野にICT*を積極的に導入していく取組を進めます。
- 行政課題が高度化・複雑化する昨今、コスト削減などの「量の改革」に加え行政サービスの内容を重視する「質の改革」への対応が求められることから、今後は、ICT*を積極的に導入して行政の更なる進化を図っていく取組を進めます。

取組項目 2 複合や転換で新たな価値を生んで元気になるまちづくり

“複合化”“多機能化”で高度な利用を考えよう。まちの資源を活用し“稼ぐ力”を高めよう。

- 公共施設整備に当たっては、単一的な利用から複合化・多機能化を前提とした考えのもと、コンパクトシティ&ネットワーク*や公民連携といった施設配置の考え方や施設整備の手法と連動させながら、施設の充実を図っていきます。
- 6次産業化の推進支援や観光との連携に関する支援、事業所における新事業や新分野への展開支援、新たな起業・創業支援、地域産業活性化に貢献する事業者の誘致活動等、町内の様々な人的・物的な財産を付加価値として生かし、外貨を獲得する力（域外からのより多くの資金を獲得する力）を高める産業基盤を構築します。

